

連休中の水路清掃に延べ50人が参加

春は水路清掃の季節でもありません。

4月29日、農業者を中心として排水路の泥上げ作業が行われました。

農業者の参加が多くなく20名の参加でした。状況を把握して事前に、法人役員等が何か所か作業を行い当日の作業を負担軽減されていました。この作業はかなりの重労働で長時間の作業はできません。厳しい作業でしたがほぼ予定通り終了できました。

5月6日には、配水側の水路を清掃しまし

除草しながらの泥上げ 排水4号での作業

た。連休の最後の日ですが、朝まで雨が止まず、実施が危ぶまれましたが、開始直前に雨雲が移動してくれて、予定通りの作業となりました。数年前から作業に小型ショベル機械を使える

好天に恵まれた当日



ようになり、水路の底から路上まで泥を引き上げる作業から解放されました。

昨年は雨天のために作業ができませんでした、そのために各所に堆積した土砂が多かったこともあり、作業時間は大幅に伸びてしまいました。しかし、その作業のおかげで水路のコンディションは大変良好となりました。

水路の延長は2200メートルに及びますから、しっかりと計画が必要になります。

早生品種の田植えが開始



資材を積みこむのが重労働

5月18日、早生品種「コシヒカリ」の田植えが始まりました。地域の圃場の南側からおよそ7ヘクタールが植えられました。

田植え作業はオペレータだけではできません。苗や資材は運ぶ人、苗箱を機械に補給する人、苗箱を洗う人、チームワークが大切です。また作業の中で起きてしまう小さなトラブルに対応しながら作業は進みます。

高齢の作業者の方は、「いつまで作業ができるかわからないけれど、伝えていきたい」と話しておられました。



水路の調整ゲートがあるところは堆積が多い



保護シートを丁寧に貼り付け

田植え用の苗箱を準備

今回の早生品種は「コシヒカリ」が主になります。これから段階的に主力になる「日本晴」。そして一番遅い作付けの「中手新千本」品種へと続いていきます。

4月27日、早生品種の稲の種まきが行われました。専用の種まき機で苗箱を1100箱調製しました。その苗箱を圃場に整然と並べ、保温や養生のためのシートをかぶせます。そして保水用には、圃場に水を引いてその水量を管理するというやり方です。

新型管理機 JKZ23 が登場



ブームを伸ばして畝と畝との間に車輪をおいて走行

八方原の環境を守る会の花壇は地域の景観を向上させるために設けています。昨年の秋にビオラを植えたので

景観形成の花壇の管理を怠ったら

小紙が出るころには、麦刈りが始まっているかもしれません。4月の終わり、真新しい農業機械が作業を始めたので、早速取材に行きました。乗用管理機と呼ばれる畑作用の作業機械です。「ブームスプレーヤ」と呼ばれる大容量のタンクを備えた薬剤散布の専用機です。ブームの長さは最大16.5メートル、当地の麦畑の圃場を1往復するだけで作業が終了してし

まいます。従来の機械は既に10年以上の使用で各所に不具合が出てしまい、連続作業が出来なかったとのこと。今回は麦の大敵の一つ「赤カビ病」の防除が主なものだと言われました。作業中は強力な噴霧で薬剤に包まれたような状況となります。これならどの部分にもしっかりと効果がいきわたるでしょう。



雑草を取り除いた花壇

ですが、その後の手入れを怠っていました。ところ、草の中に花が埋もれてしまったような状況になってしまいました。先日除草作業を行いました。長く伸びた「草」を引き抜こうとしたら、実

運動会の熱気は昔の話か

今年の小郡地域運動会は、前日までの雨の影響で中止となりました。体育部長の話では今回の運動会には地域全体で10自治会の参加予定だったということです。参加自治体が減少している中で、感染症対策として、集合型の行事ができませんでした。その休み期間が運動会の参加自治会を減少させてしまいました。以前は、自治会の TENT 張りにも制限があったほどですが。

は小さな花をたくさん咲かせたビオラでした。他の草との競争に負けないように必死に背丈を伸ばしていたのです。私たちの手入れ不足を、植物自身が補っているのが分かりました。

自治会緊急連絡網にご参加ください



メールの場合は左上のQRコード

LINEの場合は右下のQRコード

